

2021年5月24日

会社名 株式会社松屋アールアンドディ
代表者名 代表取締役社長C E O 後藤 秀隆
(コード: 7317 東証マザーズ)
問合せ先 常務取締役C F O 経営管理部長 松川 浩一
(TEL. 0779-66-2096)

<マザーズ>投資に関する説明会開催状況について

下記の通り、投資に関する説明会を開催いたしましたので、お知らせいたします。

○開催状況

開催日時 2021年5月21日（金）15:00～16:00

開催方法 ライブ配信

開催場所 当社 大野本社

説明会資料名 2020年度 決算説明会資料

【添付資料】

1. 投資説明会において使用した資料

以上

2020年度 決算説明会資料



目次

1. 2020年度（2021年3月期）実績	3
2. 2021年度（2022年3月期）業績予想	12
3. 今後の成長戦略	15
4. （参考）会社概要	24

2020年度（2021年3月期）実績



2020年度実績：サマリー



- ・売上高は創業以来初の**100億円台**を達成。
- ・営業利益以下、各段階利益において**前期比で2.05倍～2.54倍に大幅増益を達成。**
- ・売上総利益率は前期比で**1.8ポイント改善。**

	2019.3 実績 (百万円)	2020.3 実績 (百万円)	2021.3 実績 (百万円)	前期比	
売上高	7,517	8,631	10,401	120.5%	
売上総利益	959	1,207	1,644	136.3%	
売上総利益率	12.8%	14.0%	15.8%	+1.8	
営業利益	180	407	837	205.3%	
経常利益	223	380	829	217.8%	
税金等調整前 当期純利益	222	380	829	217.9%	
親会社株主に帰属する 当期純利益	113	223	567	254.3%	
1株当たり当期 純利益(円)	50.53	99.13	219.16	221.1%	

2020年度実績：セグメント別売上高＆利益



(縫製品事業)

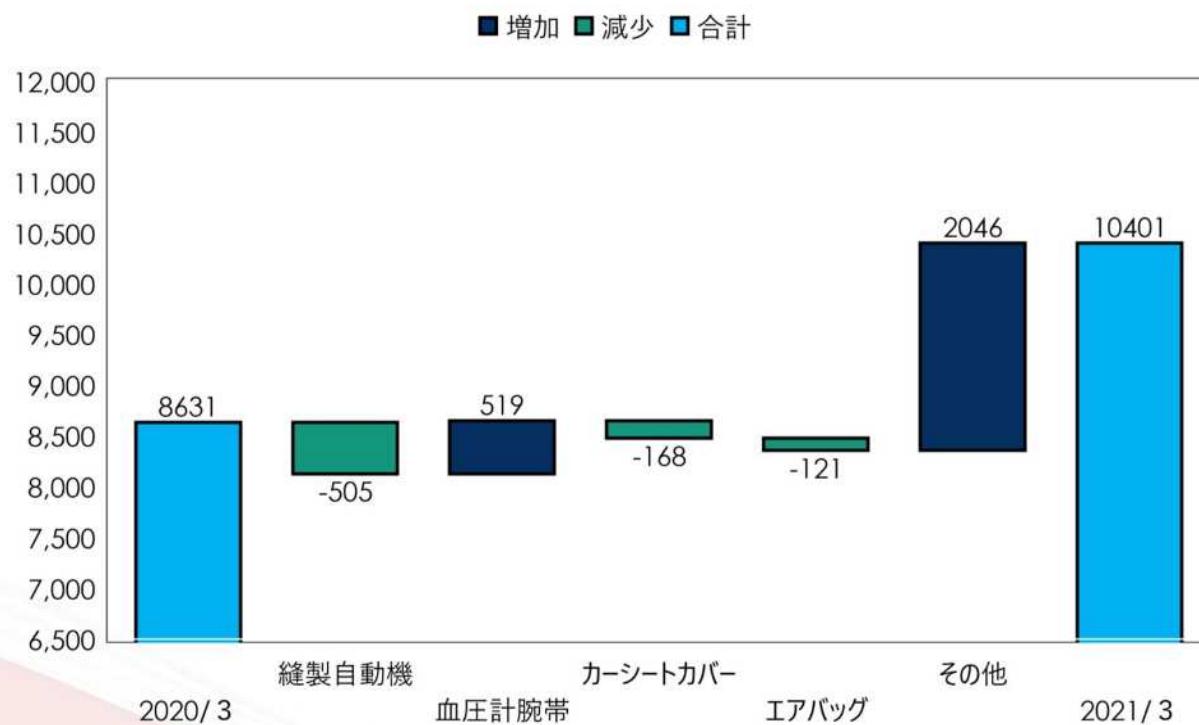
血圧計腕帯の受注増加及び防護服関連事業に新たに進出し、売上高及びセグメント利益が大幅に増加。

(縫製自動機事業)

コロナ禍の状況においてアイソレーションガウンの営業にリソースを割いたほか、来年度のエアバッグ、カーシートの新規案件の設備の準備に集中したことから、減収となるものの、下半期より徐々に案件が増加している状況。利益としては Matsuya Innovation Center (以下、MIC) の開発費用として30百万円を負担しているものの、出張旅費の抑制、リモート対応などにより損失は最小限に抑えた。

	2019.3 実績 (百万円)	2020.3 実績 (百万円)	2021.3 実績 (百万円)	前期比
売上高	7,517	8,631	10,401	120.5%
縫製自動機事業	1,236	875	383	43.7%
縫製品事業	6,342	7,762	10,038	129.3%
調整額	△61	△7	△20	—
セグメント利益	180	407	837	205.3%
縫製自動機事業	8	△115	△60	—
縫製品事業	422	736	1,138	154.5%
調整額	△250	△213	△241	—

2020年度実績：売上高の増減要因



縫製自動機：363百万円（前期比△505減）

コロナ禍において、移動制限のある中でアイソレーションガウンの営業にリソースを割いた他、新規案件準備のため、減収。

血圧計腕帶：3,700百万円（前期比+519増）

コロナ禍における健康志向の増加を背景に順調に受注数量が増加。

カーシートカバー：3,021百万円（前期比△168減）

コロナ禍により4月～6月頃まで受注が減少となったものの、7月以降から大幅回復となり、7月～3月まででは前年度を上回る受注となっており、好調が継続している。

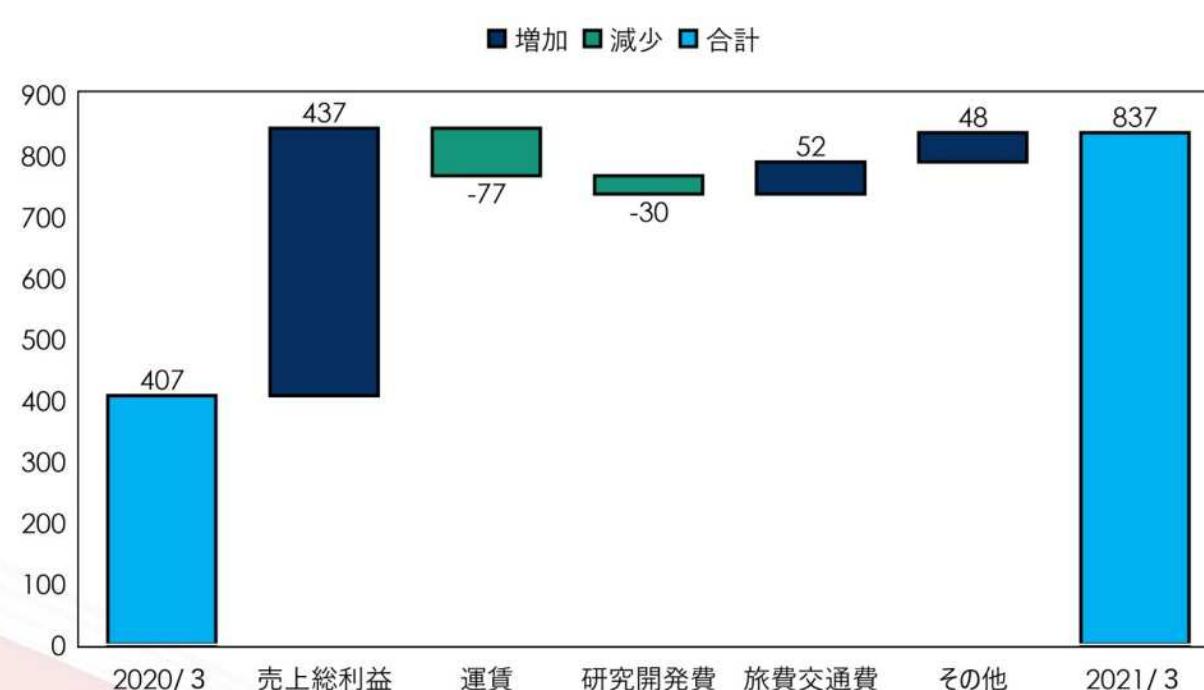
エアバッグ：1,186百万円（前期比△121減）

コロナ禍により4月～7月頃まで受注が減少となったものの、8月以降から大幅回復となり、前年度を上回る受注となっている。

その他：2,124百万円（前期比+2,046増）

防護服関連事業を開始。特に厚労省向けアイソレーションガウンの受注により大幅増加。

2020年度実績：営業利益の増減



売上総利益 (+437)

縫製自動機事業においては、コロナ禍において、アイソレーションガウンの営業にリソースを割いた他、新規案件準備のため、減収に伴い、利益減少。

縫製品事業においては、血圧計腕帯について受注数量が増加したほか、厚労省向けアイソレーションガウンを受注したことで売上増加に伴い利益も増加。

運賃 (△77)

当社及び子会社（松屋ベトナム）において、縫製品事業の売上増加に伴う増加、その他としては年後半にあたりコンテナ不足による運賃単価の上昇。

研究開発費 (△30)

MICの稼働による増加、そのほか当社におけるドローン用エアバッグの開発費用の発生によるもの

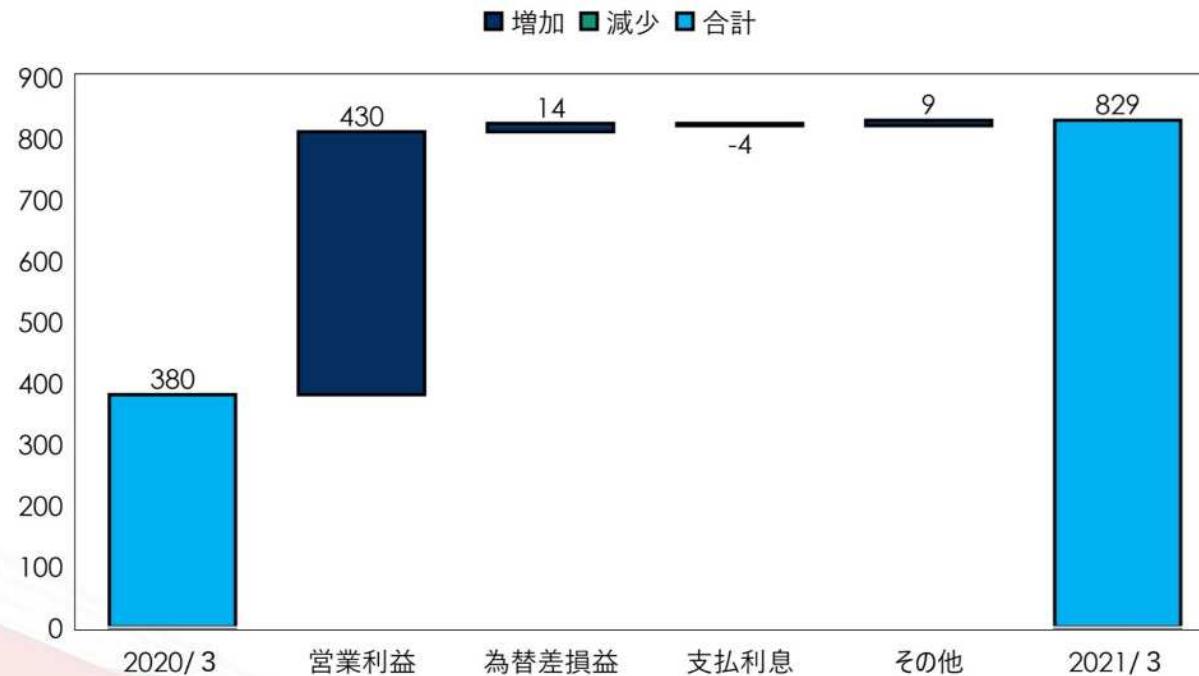
旅費交通費 (+52)

コロナ禍において出張を控え、リモート対応を中心切り替えたことによる削減。

その他 (+48)

コロナ禍により縫製自動機において欧州・アメリカ方面での販売が減少したため手数料が減少。

2020年度実績：経常利益の増減



為替差益の増加 (+14)

当年度の為替差益は34百万円、主にドル建て取引が多く、年度末に向けて円安ドル高になったことが影響。

支払利息の増加 (△4)

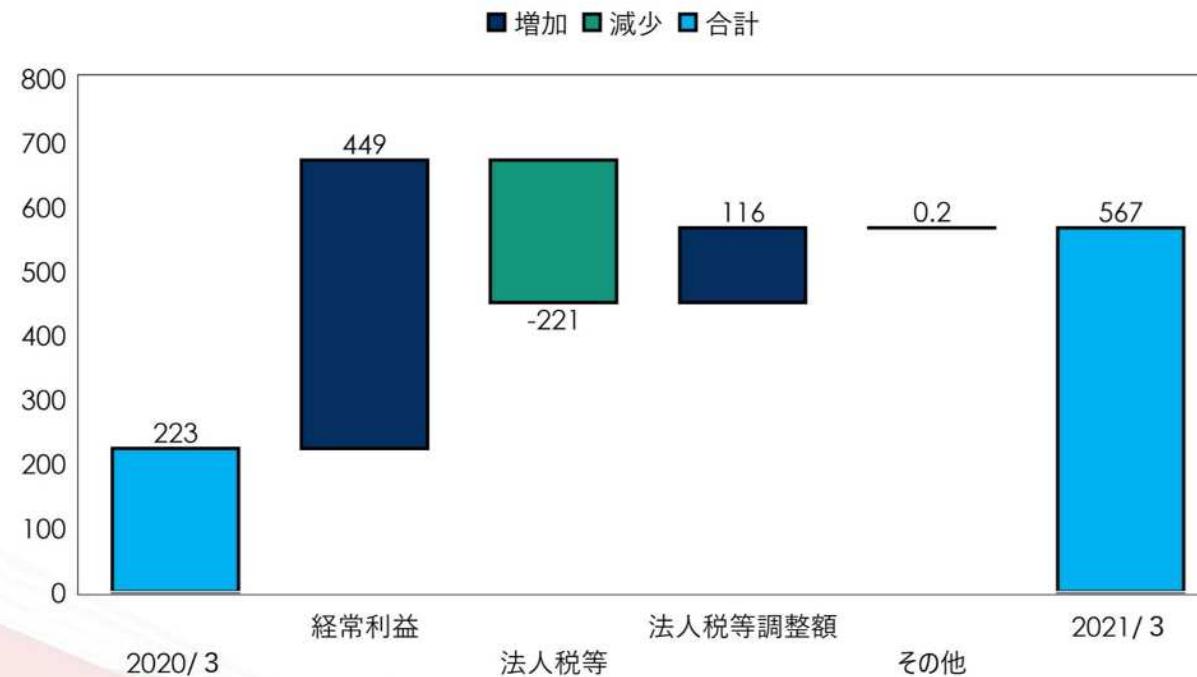
借入残高は減少しているものの、期中の取引が増加しているもの。

その他 (+9)

主に家賃補助金などの発生によるもの

2020年度実績：親会社株主に帰属する当期純利益の増減

株式会社
松屋R&D



法人税等の増加 ($\triangle 221$)

当社において業績好調などで課税所得が増加。松屋ベトナムにおいては修正申告をしたため、法人税等が増加。

法人税等調整額 (+116)

血圧計腕帯の取引増加により、連結での未実現利益に係る法人税等調整額が増加。

その他 (+0.2)

設備購入にかかる補助金及び圧縮損の発生によるもの。

2020年度実績：連結キャッシュ・フロー計算書



	2020.3 実績 (百万円)	2021.3 実績 (百万円)	前期増減 (百万円)
営業活動によるキャッシュ・フロー	219	655	+436
投資活動によるキャッシュ・フロー	△41	△61	△19
財務活動によるキャッシュ・フロー	35	△43	△79
現金及び現金同等物の換算差額	△3	6	10
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	210	557	+347

営業活動によるキャッシュ・フロー
利益が昨年度よりも大幅に増加したことにより収入が増加。

投資活動によるキャッシュ・フロー
当社及びベトナム子会社における設備投資の増加。

財務活動によるキャッシュ・フロー
上場による新規株式発行による収入で291百万円の増収となる一方、業績好調により借入金やリース債務を圧縮。

	2020.3 実績 (百万円)	2021.3 実績 (百万円)	前期増減 (百万円)
減価償却費	205	214	+8
設備投資	△41	△68	△26

2020年度実績：連結貸借対照表



	2020.3 実績 (百万円)	2021.3 実績 (百万円)
資産	現金及び預金	768
	売上債権	1,105
	棚卸資産	1,945
	有形無形固定資産	966
	その他	267
	資産合計	5,054
負債	仕入債務	1,042
	借入金（長期含む）	1,045
	リース債務（長期含む）	562
	その他	402
	負債合計	3,051
	純資産	2,002
	負債純資産合計	5,054

- ・業績好調により、**キャッシュ・フローが良化したことで、財務安全性は大幅に良化。**
- ・借入金について約200百万円の減少。

2021年度（2022年3月期）業績予想



2021年度予想



当社を取り巻く環境	
縫製品事業	<ul style="list-style-type: none">・コロナ禍でも経済成長を見せているベトナムでの生産委託需要は引き続き非常に強い。・血圧計腕帯は世界中の健康志向の高まりを受け、継続して成長する見込み。・自動車関連（カーシート、エアバッグ）についても継続的に生産が増加。・ミャンマーでは軍によるクーデターの混乱はあるものの、現状は通常生産を継続できている状況。万が一、生産がストップしても代替生産が可能。・アイソレーションガウン等のコロナ対策については激減すると見ている。
縫製自動機事業	<ul style="list-style-type: none">・新型コロナウイルスの感染拡大は続いているものの、顧客企業との商談が増えてきている状況にあり、ヨーロッパ、メキシコなどアフターコロナの成長に向けての設備投資需要が大幅に見込まれる。・国内でも自動化のニーズは多く、縫製以外でも需要がある。（食品業界、リハビリ等）
その他	<ul style="list-style-type: none">・ドローン市場の高まり。・ヘルスケア分野の大幅な需要拡大。・サプライチェーンの変更によるベトナムへの生産移管が進む。・コロナ禍を受けて、様々な業種でM&A需要が拡大している。・ウェアラブルセンサーの多様化・収益認識会計基準の適用

2021年度予想



- ①コロナ禍により不確定な要素も含まれるため、慎重且つ保守的に見込んでおります。
- ②既存事業において、血圧計腕帯については好調を維持していること、カーシート事業、エアバッグ事業については新規の取引が開始されていくことから、大きく成長していくことが見込まれます。
- ③収益認識会計基準の適用により、売上高の金額が減少しているように見えますが、2020年度と同様の基準で集計した場合は増収となります。
- ④ローン用エアバッグ、メディカル関連の新規事業の進出を計画しております。これらは業績予想には織り込んでいないものの、今後の成長が大きく期待できるものと見込んでおります。

	新基準適用前		新基準適用後
	2021.3 実績 (百万円)	2022.3 従来基準予想 (百万円)	2022.3 公表ベース予想 (百万円)
売上高	10,401	11,239	7,186
売上総利益	1,644	1,620	1,620
売上総利益率	15.8%	14.4%	22.5%
営業利益	837	724	724
経常利益	829	707	707
親会社株主に帰属する当期純利益	567	536	536

今後の成長戦略



事業内容

弊社はミシンメーカーではありません。また、単なる縫製工場でも、自動車部品メーカーでもありません。

縫製工程の自動化を提供する縫製自動機事業および

縫製のノウハウ、工程自動化など独自技術を活用した製造受託を行う縫製品事業、

この2つの事業を活かして持続的な成長を目指す企業です。

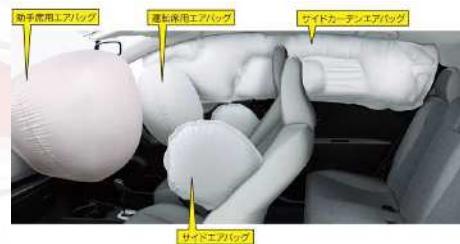
縫製品事業

- 各種縫製品の製造

▼ 血圧計腕帶 ▼ カーシート



▼ エアバッグ



縫製自動機事業

- 自動車安全装置縫合システムの開発・製造・販売
- レーザー裁断機の開発・製造・販売
- 医療用自動化ラインの開発・製造・販売



当社を取り巻く業界の変化予想及び今後の取組

自動機事業（ソーイングオートメーション）

1) あらゆる分野で産業用ロボット需要が増大

(変化予想)

人手不足や自国内生産対応のための自動化生産対応の需要がコロナ禍でさらに加速が見込まれます。

(今後の取組)

A I ソーイングロボットや画像検査装置など次世代自動機の開発・製造・販売及び関連メーカーと業務提携

(New) 食品業界など異業種からも依頼が増加

2) ロボットSI（ロボット・システムインテグレーター）需要の増加

(変化予想)

生産現場へのロボット導入を設計する専門職の需要が急増すると見込まれます。

(今後の取組)

ベトナムM I Cの技術者育成

(New) ドライバー席用エアバッグの自動機（初号機）を開発。（7月より発売開始）

当社を取り巻く業界の変化予想及び今後の取組

自動機事業（ソーリングオートメーション）

3) メディカルヘルスケア分野の拡大

(変化予想)

新型コロナウイルスだけでなく、今後の感染症対策も含め日本製の医療用製品の自動化需要も拡大していく見込み。

(今後の取組)

メディカル部門及び防護服等の製造、自動機の開発・製造・販売

(New) メディカル部門で前田工織(株)との資本業務提携を実施

4) コロナ後を見据えた設備投資回復の兆候

(変化予想)

メキシコとアメリカ間の貿易摩擦緩和により、メキシコでの生産設備商談が急増しており、需要が拡大。

コロナ後を見据え、ヨーロッパ企業においても設備投資回復の兆し。

(今後の取組)

(New) 販売促進の強化、人材の多様化（外国人採用を拡大中）により営業力強化

(New) ポーランドなど東ヨーロッパへの進出

当社を取り巻く業界の変化予想及び今後の取組

縫製品事業（ソーイングプロダクト）

1) 国によるサプライチェーンの見直し

(変化予想)

ローコスト生産品については賃金高騰が激しい中国やタイでの生産からベトナム生産への移管が増加。

(今後の取組)

ベトナムでの受託先の拡大（**(New) すでにカーシート、エアバッグで新規事業開始**）

2) 大きな業界再編、大手企業のファブレス化

(変化予想)

コロナ禍で当社を取り巻く業界においても大きな事業変化が起きております。

変化の激しい環境にある中、需要の大きな変化に対応するため、ファブレス化が進んでおります。

(今後の取組)

積極的なM&A、業務提携の活用

弊社製レーザー裁断機を使用し、裁断に特化した事業を展開

当社を取り巻く業界の変化予想及び今後の取組

新規事業

1) ドローンの市場拡大

配達用など市場の拡大に伴い、安全装置としてドローン用エアバッグの需要が見込まれます。

ドローン用エアバッグの開発・製造・販売に注力

(New) 6月にドローン展に出展予定（幕張メッセにて配達用ドローン用の開発品を展示）

(New) 空モビリティ用エアバッグの実証実験を予定（2021年度中）

2) メディカル分野の需要拡大

(New) エムハートとコンサルティング契約締結し、リハビリ関連事業の進出を検討。

(通常時)



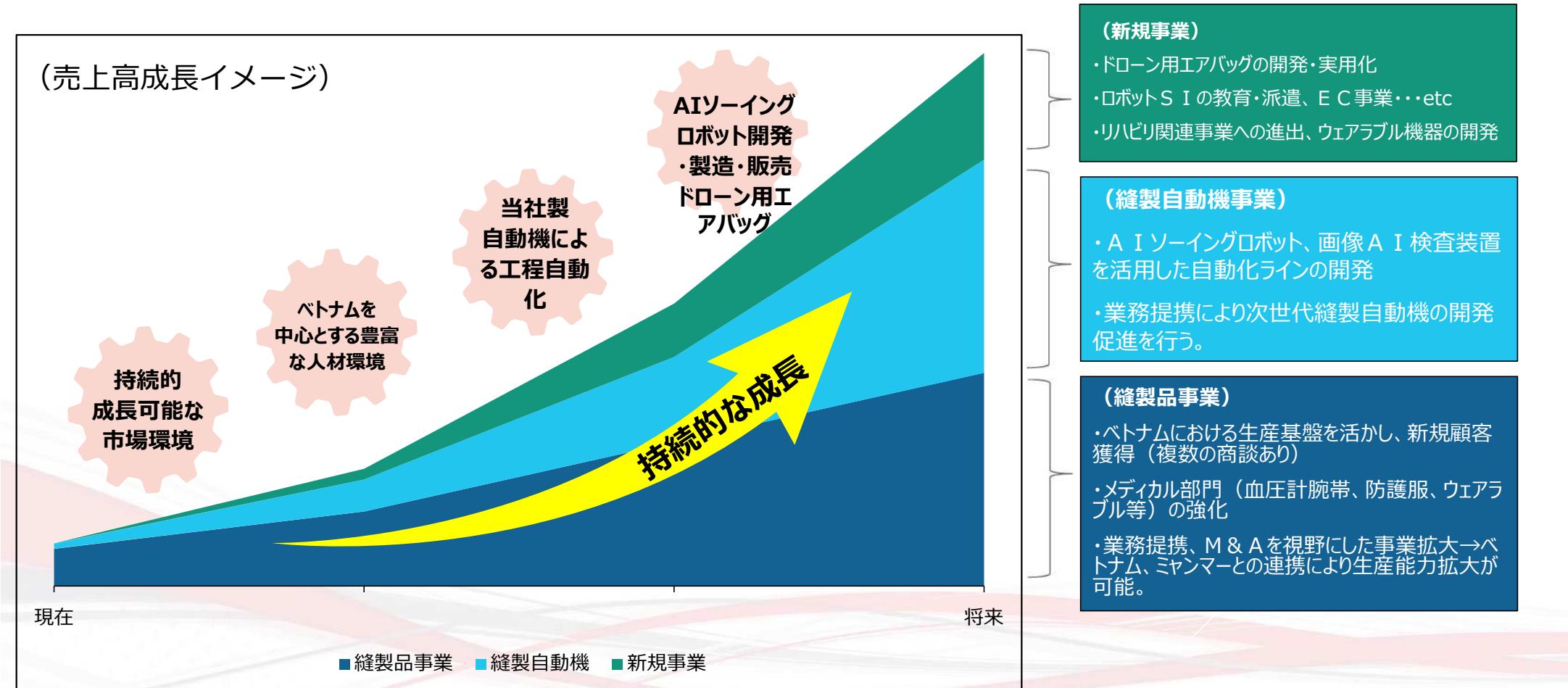
(エアバッグ展開時)



今後の成長戦略



安定収入を生み出す縫製品事業を基盤に次世代縫製自動機の開発及び新規事業を中心に経営資源を投入し、持続的な成長を目指します。



次世代縫製自動機の開発

- ・ベトナムのイノベーションセンターと日本本社と連携し、ロボット主体の自動生産ライン開発を更に強化
 - ・イノベーションセンターにて優秀なロボットSIを多数育成
 - ・ロボットメーカーとの業務提携も視野に入れながら、次世代縫製自動機の開発を促進
- ・日本とベトナムが連携してAIを開発し、優秀な人材を育成し、派遣も視野に入れていく



MICにおける主な開発テーマ

AIソーライングロボット

- ・双腕ロボットと画像処理システムを導入した縫製装置の開発
- ・関連特許を日本で取得済み、アメリカにおいては査定取得、欧州、中国にて申請中

画像AI検査システム

- ・エアバッグやカーシートの品質検査に使用することを目的として開発中

ドライバー席用エアバッグ縫製自動機 ...etc

- ・独自開発した画像認識カメラを搭載したAIロボットを7月より販売開始



Matsuya Innovation Centerの技術者13名まで増加。

(注意事項)

本資料には、将来の見通しに関する見通しや、事業戦略が含まれておりますが、本資料作成時点において入手可能な情報に基づいて作成されたものであり、リスクや不確実性が含まれており、実際の業績等が、これらの見通しや予測とは異なる結果となる可能性があります。

それらのリスクや不確実性には、一般的な業界、ならびに市場状況、金利、為替変動等の国内外の経済状況が含まれます。

今後、新しい情報や将来の出来事があった場合でも、当社は、これらの見通し情報の更新や修正を行う義務を負うものではありません。

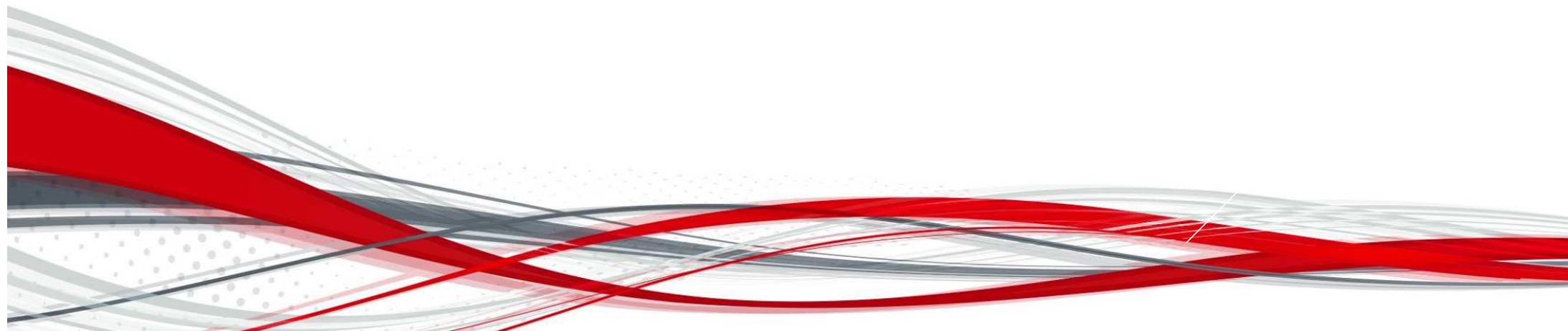
(本資料に関するお問い合わせ)

株式会社松屋アールアンドディ IR担当

<http://www.matsuyard.com/>

Email : matsuya@matsuyard.com

(ご参考)



会社概要



会 社 名	株式会社 松屋アールアンドディ
設 立	1982年8月7日
上 場 市 場	東証マザーズ 証券コード 7317
本 社	福井県大野市鍬掛20-1-2
資 本 金	270百万円
代 表 者	代表取締役社長 後藤 秀隆
事 業 内 容	自動車安全装置縫合システムの開発・製造・販売、 レーザー裁断機の開発・製造・販売、 血圧計腕帶の製造、カーシートカバーの生産 等
従 業 員 数	1,440名 (2021年3月末時点)
拠 点	海外拠点：3拠点（中国：上海市・ベトナム：ドンナイ省・ミャンマー：ヤンゴン州） 国内子会社：1拠点（宮城県：栗原市）



事業内容

弊社はミシンメーカーではなく、
縫製の自動化を行う「縫製自動機事業」と
新しいビジネスモデルによる「縫製品事業」が主力事業

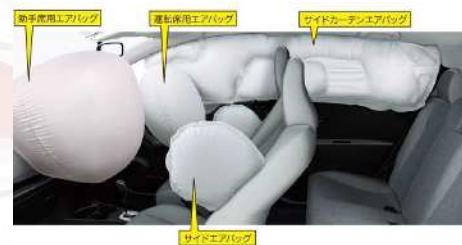
縫製品事業

- 各種縫製品の製造

▼ 血圧計腕帯 ▼ カーシート

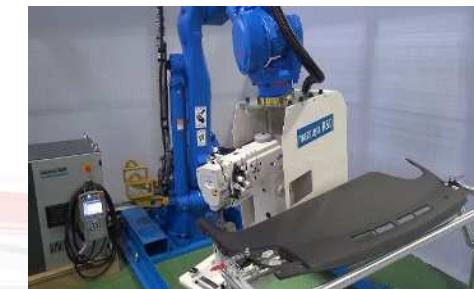


▼ エアバッグ



縫製自動機事業

- 自動車安全装置縫合システムの開発・製造・販売
- レーザー裁断機の開発・製造・販売
- 医療用自動化ラインの開発・製造・販売

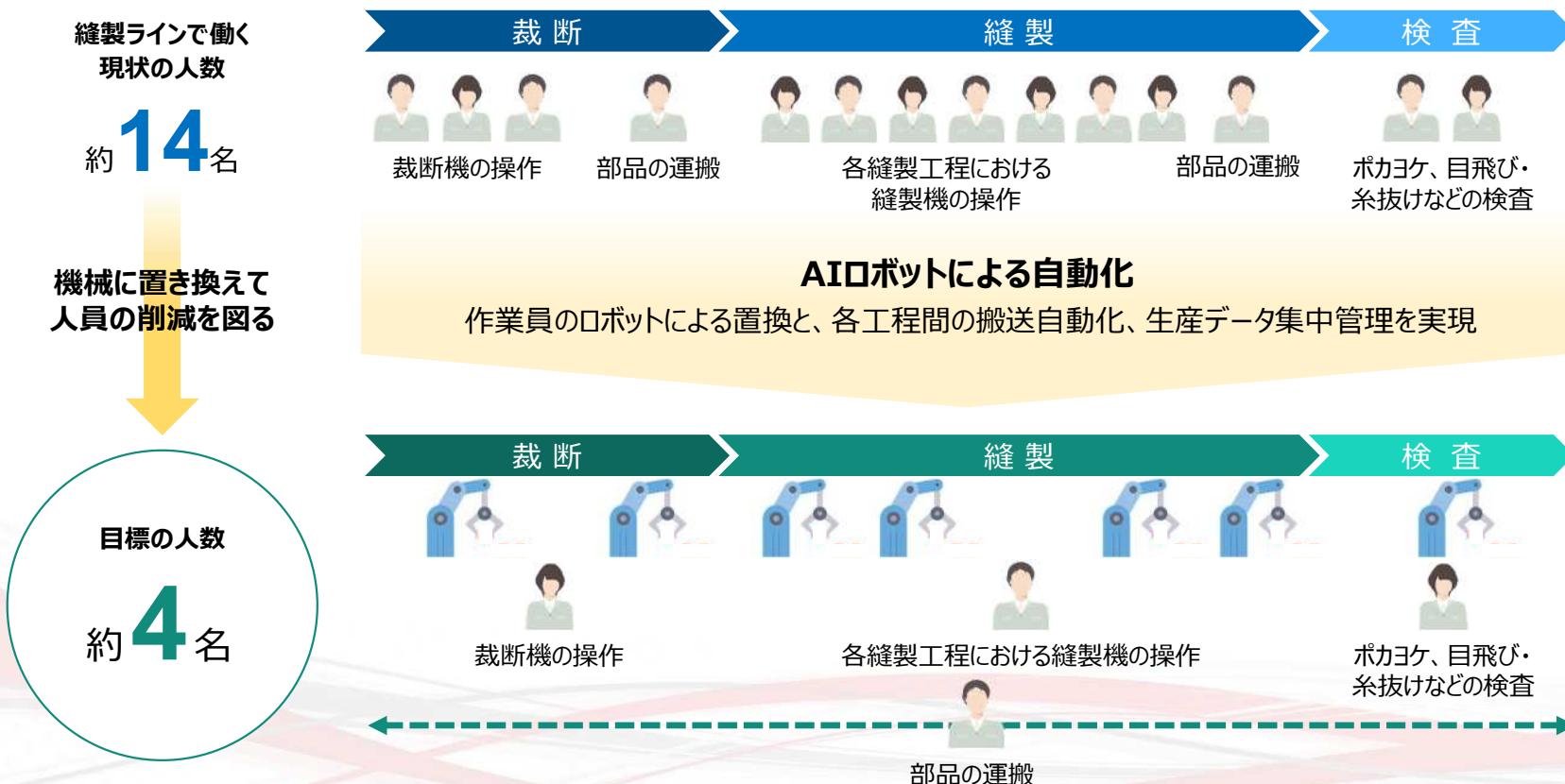


縫製自動機事業の内容



弊社はミシンメーカーではなく、コンサルティングを起点に、自社開発のハード・ソフトを組み合わせ

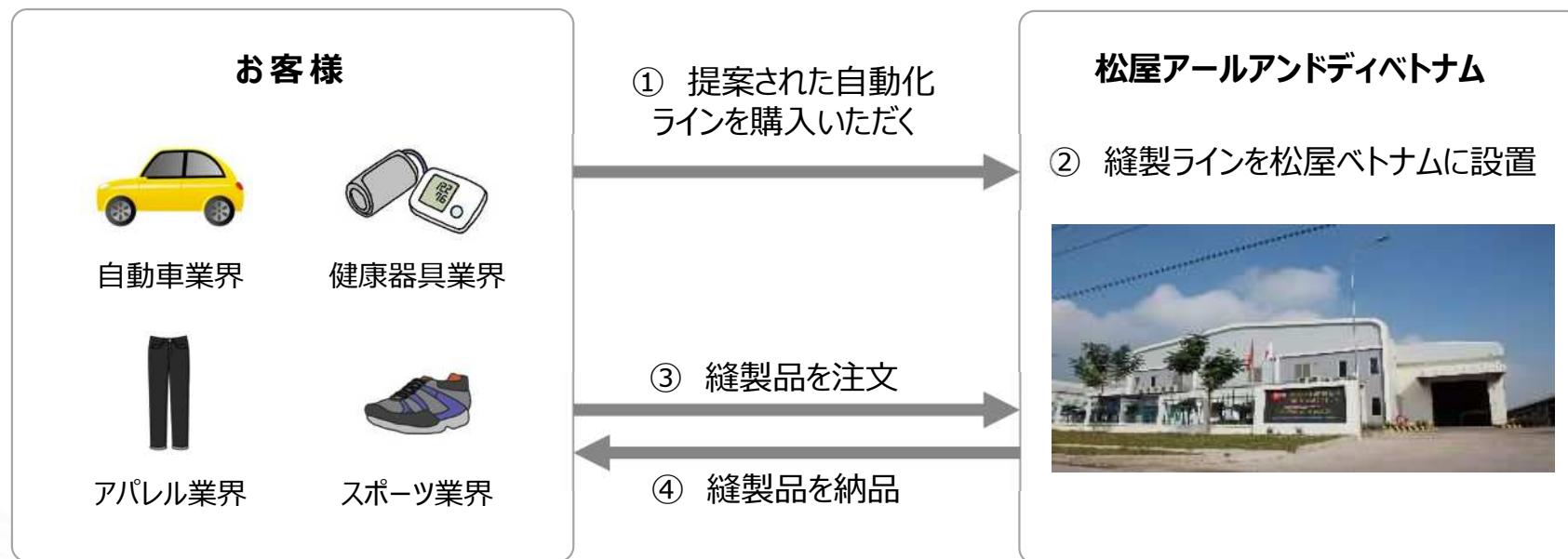
人手に頼っている作業をAI搭載ロボットに置き換える、**縫製ラインの自動化**を実現し、作業者を3K作業（きつい・汚い・危険）から解放する企業である。



独自の縫製品事業ビジネスモデル

従来の縫製工場と違って

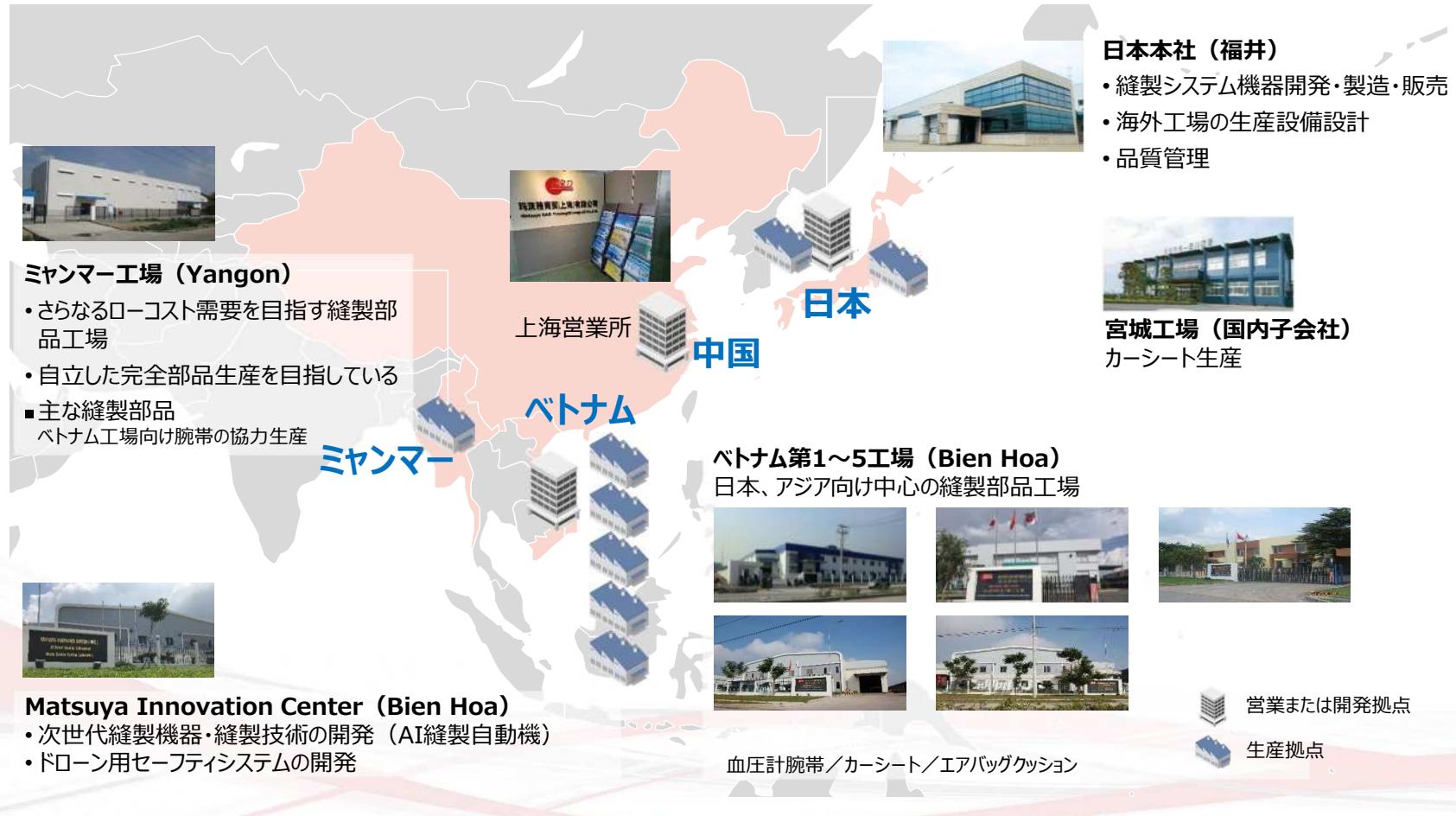
顧客負担で縫製自動機を購入するため、弊社の投資が少なく、急速な事業拡大が可能



縫製品製造に関するノウハウを蓄積し、
安定的に高い利益率を確保することが可能

グローバル生産＆営業・開発体制

アジアを中心に生産拠点を設け、低コスト生産体制を構築



縫製自動機事業および縫製品事業の拡大

AI縫製ロボットを駆使した自動化ラインの構築を機に
縫製自動機事業、縫製品事業それぞれの受注を拡大

